

第6回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議（議事録）

日 時：平成30年3月20日（火）
午後0時30分から午後2時まで
場 所：自治会館 203会議室

1 開会

●山崎 震災復興推進課副参事兼課長補佐（総括担当）

定刻前ではございますが、御出席の委員の皆さまが揃いましたので始めさせていただきます。

ただいまから第6回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議を開催いたします。始めに伊東震災復興・企画部長から御挨拶申し上げます。

2 挨拶

●伊東 震災復興・企画部長

皆さまこんにちは。震災復興・企画部の伊東でございます。

委員の皆様方におかれましては年度末のお忙しい中、会議に御出席いただきましてありがとうございます。今回は第6回目、最終回となりますので、これまでにいただきました意見の取りまとめということで事前にお目通しいたきまして本当にお忙しい中、ありがとうございます。重ねてお礼申し上げたいと思います。

県では、2月から3月にかけて議会を開催しておりまして、来年度の予算を含めまして、色々と御審議をいただいたところでございますが、議会の冒頭に知事からは震災の記憶・教訓を広く国内外に、次世代に伝え続けていくことができるよう、今年度実施しているこの伝承のあり方検討を踏まえて、震災遺構や伝承施設、アーカイブ等のネットワーク化に官民連携で取り組む仕組みの具体化を図っていくと述べたところでございます。

また議会では多くの議員の皆さまから、石巻の南浜津波復興祈念公園の中核的施設の活用や語り部の皆様方への支援・育成、アーカイブの連携・活用等で色々な御質問、御提案がございました。この震災の記憶・教訓の伝承ということに関して、ますます関心が高まってきていると認識しているところです。

県といたしましては、知事が述べたように、今後官民連携の仕組み作りを具体化していかなければならないと考えておりまして、そのためにもこの会議での御意見をしっかりと受け止めさせていただきます。踏まえていきたいと考えておりますので、本日も皆様方の御忌憚のない御意見をいただければと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

●山崎 震災復興推進課副参事兼課長補佐（総括担当）

本日は気仙沼市自主防災組織連絡協議会の臼井委員及びみやぎ連携復興センターの石塚委員におかれましては所要により欠席されております。

また、みやぎ観光復興支援センターの塚原委員ですが、人事異動がございまして本日は欠席されておりますが、代理として後任の村山センター長様に御出席いただいております。

皆さまのお手元には阿部委員から「震災と文学」の講義録を委員の皆さまに御献本いただいておりますので、御確認いただきたいと思っております。また、東北地方整備局様からの「インフラツアールポイントガイド（復興版）」の冊子を各委員の皆さまにお配りしておりますので、お時間のあるときにお目通しいただければと思っております。

それでは議事の進行につきましては、今村座長にお願いしておりますのでよろしくお願いたします。

3 議事

(1) 第5回有識者会議の概要について

●今村座長

それでは最終回でございますので、どうぞよろしくお願いたします。

議事を見ていただきたいと思っておりますけれども、本日は3つございます。まずは前回の第5回有識者会議の概要について確認していただきたいと思っております。資料については1ということで事務局からご説明をお願いいたします。

●事務局（山下 参事兼震災復興推進課長）

震災復興推進課の山下です。私の方から説明させていただきます。着座にて説明させていただきますので御了承いただきたいと思っております。

「(1) 第5回有識者会議の概要について」につきまして御説明をさせていただきます。

資料1を御覧いただきたいと思っております。

前回も委員の皆様から多くの御意見をいただいております。議事録につきましては別途委員の皆さまに現在確認をしていただいているところがございますが、伝承の理念や「誰に」、「何を」、「どのように」、そして連携ネットワークについて、また前回御意見をいただいております、ネットワークを運営する組織と課題につきまして、それぞれ項目毎に集約しておりますので、主な御意見について御説明いたします。

まず資料の2ページを御覧ください。

「①震災の記憶・教訓の伝承の理念について」としまして、「啓発」についての意見をいただいております。また「②「誰に」伝承するのか」につきましては、災害対応に取り組む県内外の行政関係者に伝えていくべきとの御意見をいただいております。

次に3ページにつきましては、「③「何を」伝承するのか」としまして、在住外国人の体験・経験や岩手・宮城内陸地震などの過去の災害の経験等も同時に伝えるべきとの意見をいただきました。「④「どのように」伝承するのか」としましては、体験よりも実践できる仕組みづくりという御意見をいただいております。

4ページを御覧いただきたいと思っております。

「震災の記憶・教訓の伝承に向けた連携・ネットワークについて」では、「企業・民間施設」の取組をネットワークに取り組んでいくべきとの御意見をいただいております。

5ページを御覧いただきたいと思っております。

ここからは、「ネットワークを運営する組織と課題について」の御意見をまとめております。

まず、「ネットワークを運営する組織の必要性」としましては、宮城の特異性として主体や県民を基軸に連携してはどうか、横串を刺すある程度のボリュームを持った機関が必要ではないかとの御意見をいただいております。

6ページを御覧いただきたいと思っております。

「②ネットワークを運営する組織の機能と課題」のうち、求められる「機能」としましては、県民が参画する形での取組、既存のものの有効活用とコーディネート、アーカイブの分析・活用におけるデータベース構築、顕彰制度等の機運醸成の仕組みづくり、活動主体の交流拠点と相談スタッフ、知見の集約拠点、記録等の受入窓口、伝承だけではなく周辺領域も含めた役割の検討、調査研究機能の検討等が必要であると御意見をいただいております。

また8ページですが、「実効ある官民連携の在り方」としましては、組織は、阪神や中越と同様に、官の関与があり、継続性のある、協議会ではない公益法人組織が必要である等の御意見をいただいております。

組織の人材としましては、マネジメント能力と共に強い想いを持っている人、現場との合意形成を図るキーマンの育成等の御意見を、立ち上げにつまましては、組織論と施設を切り分けて、復興期間中の立ち上げをすべき等の御意見があり、またどういう段階でやっていくか、項目立てもする必要もある、組織を立ち上げた場合の拠点についての検討が必要である、そうした場所が無いとネットワークのイメージがしづらい等の御意見をいただいたところです。

いただいた御意見につきましては、この後説明させていただきます資料2として作成しました、「有識者会議意見取りまとめ」の中に取り込みさせていただいております。

「(1) 第5回有識者会議の概要について」の御説明は以上です。よろしくお願いたします。

●今村座長

ありがとうございます。前回第5回の会議の要点をまとめていただきました。御発言の内容が違うのですとか、これについて発言したのだけれども記載されていない等々御意見をいただけましたら幸いです。

本日今御説明いただいたものは、次の資料2で最終報告に反映させていただいております。どのような表現になるかは御確認いただきたいと思っております。

よろしいでしょうか。特に忘れていた点等ございませんでしょうか。

(意見なし)

それでは前回の内容ということで御確認いただいたということで次の議題に移りたいと思っております。

(2) 東日本大震災の記憶・教訓のあり方検討有識者会議意見取りまとめについて

●今村座長

今回最終回ということでございまして、この有識者会議での大きなアウトプットでございます取りまとめ書です。

資料2について御説明いただきたいと思っております。

●事務局(山下 参事兼震災復興推進課長)

「(2) 東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議意見取りまとめについて」御説明させていただきます。

資料2と併せて資料3を御用意いただきたいと思っております。

資料2につきましては事前に委員の皆さまに送らせていただき、内容を御確認いただいた

上、御意見をいただくということにしております。御意見に基づきまして、修正点等も併せて御説明させていただきたいと考えております。

まず資料2の1ページを御覧いただきたいと思います。

「1 東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議概要」としまして、本有識者会議の目的、委員皆様の名簿、本日の第6回会議までの開催状況を記載しております。

2ページでは、「2 検討概要」としまして、まず①の「検討に至る背景」としまして、これまでの検討資料におきまして、「東日本大震災を受けて」と「東日本大震災からの時間の経過に伴って」として記載しておりました内容を文章化しております。また②の「検討フレーム」につきましましては、第2回会議において検討いただいた検討フレームについて、「誰に」「何を」「どのように」「誰が」の内容について省いた、項目として表現させていただいております。また組織の必要性につきましまして、新たに記載した形で整理させていただいております。

ここで、資料3についても御覧いただければと思います。事前に委員の皆様へ送付した(案)についての御意見をいただいております。資料3の一番上になりますが、2ページの検討フレームの中で委員の皆さまに事前にお渡しした資料から、点線に囲んだ検討フレームの図の左側の「理念(目標)実現に向けた取組」のところ「(あるべき姿)」を今回追記させていただきました。またイメージ図の下部分、委員の皆さまに事前にお配りしたものでは「～ネットワークの基軸となる組織」と記載されておりましたが、全体の議論の流れから内容と合わせまして、「～ネットワークの役割と課題」とさせていただき、その下に具体的に検討しました、「震災遺構・伝承施設、アーカイブ、取組主体」、「複層的ネットワークの運営組織の必要性」を追記させていただいております。

また資料2のお戻りいただきまして、3ページを御覧願います。

「震災の記憶・教訓の伝承の理念について」としまして、「東日本大震災と同じ犠牲と混乱を繰り返さないために」という基本理念のもと、「伝え続けていく」「覚悟を持つ」「県民すべてが意識を共有し」「地域特性を理解」「防災・減災の地域文化を創造する」といった項目を記載しております。第5回会議において、「啓発」についていただいた御意見につきましても主な意見として記載させていただいております。

さらに資料3に記載しておりますが、基本理念につきましまして、「東日本大震災と同じ犠牲と混乱を繰り返さないために」のところでは、理念としてのメッセージ性を強められるとして「ために」という文言を削除してはどうかという意見が出てきております。また、「啓発」の文言については理念の下点線囲いの中に入れていたところではございますが、「理念」の文中に入れてはどうかとの御意見が出てきております。これらにつきましましては本日、委員の皆様から御意見をいただければと思っております。また、具体的な目標につきましましては、第3回会議で検討した際の(案)についても記載すべきと御意見がありましたので、今回は(素案)として3ページ下の部分に記載しております。

資料2の4ページを御覧いただきたいと思います。

「震災の記憶・教訓の基本的な考え方について」としまして、これまでの議論の流れを記述させていただいた後に、今まで討論いただいた内容を記載させていただいております。これにつきましては資料3の中程以下に記載のとおり、「誰が」が重要であり、先に記載すべきではないか、ただし、検討した順では「誰が」が最後であるので、検討した順での並びであることを記載すべきではないかとの御意見がございました。そちらに御意見の本文は記載させていただきました。こちらに基づきまして、資料2につきましましては今回の議論で検討した順番に沿った形での表現にさせていただいておりますので、その部分を修正させていただいております。

6ページを御覧いただきます。

「3 震災の記憶・教訓の伝承のあるべき姿について」としまして、「誰に」「何を」「どのよう

にして」「誰が」伝承するのかについて、これまでの議論におきましては箇条書きで記載した内容をそれぞれ御呈示させていただいておりましたが、今回はそれぞれの内容を文章化して取りまとめを行っております。

「誰に」では、「被災した地域に住む人」として、地域住民、一定期間在住している人、次世代向けに、「他の地域の人」として、来訪者、県外居住者、震災が予想される地域の住民向けに、そして、第5回会議で御意見をいただきました行政向けに伝承していくと③に追記して記載しております。

資料3の裏面を見ていただきたいと思います。先ほど説明させていただきました、③の「行政」につきまして御意見をいただいているところでございます。「行政」だけを記載した関係で、行政以外の担い手についても記載すべきではないかという御意見も出されております。宮城県民と宮城県民以外の県民の記載の分け方も含め、本日また御意見をいただければと考えているところでございます。

また「何を」につきましては、記録・情報、記憶・経験、知識・教訓について記載しております。これも箇条書きであったものを文章化してとりまとめを行っているところでございます。これにつきましてもタイトルの標記として、もう少し説明を加えてはどうかとの御意見があり、記録・情報、記憶・経験、知識・教訓のそれぞれのタイトルについて、説明を加えた形で修正をさせていただいているところです。次の8ページ以降も同様にタイトルそれぞれに「～による伝承」という言葉を付けさせていただいております。

また資料3の一番下にあります「他の意見」とあるものにつきましては、排除されるのかとの御意見もございました。資料2の9ページにあります点線囲みの文章につきましては、事前にお配りした資料では「他の意見」と表記させていただいたのですが、委員の方から「他の意見」では排除されるような感覚があるとありましたので、今回「主な意見」という形で元に戻しております。これにつきましては御意見として本文中に取り込みができていなかったものや深掘りした意見等を記載させていただいたものということもあり、どのような形で取り込んだらいいかについての御意見もいただきたいと思いますと考えております。

資料2の8ページにあります「どのようにして」では、様々な取組として、震災遺構・伝承施設、語り部・アーカイブ、防災学習・教育・啓発、地域活動、地域外からの受け入れ態勢・観光のそれぞれによる取組とそれらの取組を連携・ネットワークすることについて記載させていただいております。

なおこれにつきましても、資料3裏面の上から2段目「(オ) 地域外からの受け入れ体制・観光」のところ、交流人口・関係人口の拡大について触れた方がよいのではないかと御意見をいただいております。これまでの議論では踏み込んでいなかった部分でもありますので、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思いますと考えております。

資料2の10ページをお開きください。この「誰が」伝承するのか?では、現在の取組主体と県全体の伝承をネットワーク化し、牽引する組織について記載させていただいております。連携・ネットワークと組織についての詳細につきましては、11ページ以降に改めて記載しておりますので11ページを御覧いただければと思っております。

「4 震災の記憶・教訓の伝承に向けた連携・ネットワークについて」としまして、震災遺構・伝承施設、アーカイブ、取組主体のそれぞれのネットワーク化につきまして、11ページから14ページにかけて、目的、機能、課題と「主な意見」、ネットワーク図をそれぞれ記載しております。機能・課題につきましては箇条書きにて取りまとめさせていただいておりますので、これにつきましても御意見をいただければと思っております。

15ページを御覧いただきたいと思います。

「5 ネットワークを運営する組織と課題について」としまして、3つの複層的なネットワーク

を運営し、横串を刺して情報発信を行っていく組織の必要性和、その組織の機能と課題として求められる機能と、実効ある官民連携の組織とするための課題について記載をしております。組織につきましても、第5回会議での議論を取りまとめているところですので、不足している部分、修正すべき分もあるかと思いますが、御意見をいただければと考えております。また資料の後段の方には使用いたしました資料を資料編という形で添付させていただいております。これらが1つとなりまして、今回の取りまとめとなるところでございます。

最後に、資料4を御覧いただきたいと思ひます。

第2回会議におきまして、臼井委員から震災の記憶の風化状況に関する県民の意識状況を把握すべきとの提言がございました。先日公表したところですが、県が実施した県民意識調査の結果が出ましたので、平成27年度と今回の29年度について、県全体としての比較ですが、それぞれの回答状況を取りまとめたものを資料として配布しております。

以上「有識者会議意見取りまとめ」につきましても御説明させていただきました。委員の皆様からは忌憚ない御意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

●今村座長

ありがとうございました。資料2を中心に、資料3、4も加えまして御説明いただいたところでございます。この取りまとめの内容が多いですので、前半と後半に分けてさせていただき、御意見をいただきたいと思ひます。

資料2でいいますと1ページから10ページを前半、11ページから資料編も含めて後半というところで御意見をいただきたいと思ひます。

それではまず前半の部分で、既に御意見をいただいたところはある程度入っておりますが、まだ加筆・修正も必要などところもあります。その点につきましても御意見をいただきたいと思ひますが、まずは御質問等でございますでしょうか。

もし確認事項、御質問事項等なければ御意見等をいただきたいと思っております。具体的な最終報告書の形ですので、細かいところでも結構でございますので、気づいた点、御発言をいただきたいと思っております。まずは委員の皆様方のお気づきの点をお願いいたします。

●宮原委員

事前に意見を出せず、申し訳ありませんでした。

3ページの基本理念の文言を少し強調してもらいたいところがありまして、意見申し上げます。

基本理念の○の下から2つ目、「宮城県の地域特性（自然、歴史など）を理解した上で、震災の記憶・教訓の伝承を行う。」という言葉ですが、「理解した上で」というのはちょっと弱くて、積極的に理解をしなければいけないですよというニュアンスで表現していただきたいと思ひます。書き直すとするとも「～地域特性の理解を進めていくとともに、震災の記憶・教訓の伝承を行う。」というふうには、ここは是非「理解を進め」という書き方にさせていただけると助かります。

それから先ほどありました主な意見で枠外に出しております「啓発」の事については、一番下の○と宮城の地域特性の○の間に入れるのがいいのかなと思ひました。

●今村座長

具体的にありがとうございました。

まずは御意見をいただきまして、最終調整するところはここでの会議か後日調整させていただきたいと思ひます。

その他委員の皆様さまでございますでしょうか。

●武田委員

基本理念の「ために」を取るか取らないかについては、基本理念のところでは取った方がいいかもしれませんね。御指摘通りかと思います。繰り返さないと言い切った方が、非常に理念的には力強いものになるかと思います。

取りまとめ資料の副題が「～繰り返さないために」となっていて、これは「ために」で構いませんが、理念はやっぱり言い切った方がいいかなと、御指摘通りだと思います。

「啓発」のところは無理にこのような形で書いていただく必要は全く、発言者としてはなかったのですが、基本的には県民運動をきちんと展開していくイコール啓発だと捉えているので、もし可能であれば、県民運動を起こそうというぐらいのイベント、顕彰等を含めた啓発活動を展開していくという文言を、枠の中で納められるのであれば検討しても構わないと思います。後ろの方に啓発も具体的な目標の中に入っていますが、全体的な今までの会議のトーンからいくと県民運動は起こしていきましょうよというものが非常に強かったように、ニュートラルな立場から見てもそう受けるので、それをフォローできるのであれば枠の中にそこを含めてもいいのかなと思います。

●今村座長

ありがとうございます。黒枠の理念のところですね。ありがとうございました。

●武田委員

もう1つ。具体的な目標（素案）のところの扱いがどうだろうかと、ちょっと引っかかっています。30年後という文言は確かに事務局素案としては出たのですが、非常にネガティブな意見の方が多かったように、私はそこについて具体的に何年とは言いませんでしたが、ちょっと長すぎるのではないですかという意見の方が大勢だったように思うのを考えると、いかにたたき台であったとしても、ここにこういう形で残すのはどうだろうかと。

であれば、30年後という素案に対してはやはりそれでは長すぎて、せいぜい10年ではないですかというような意見があったように記憶しておりますが、そういうものを付記するような形でまとめないと、やや浮いているなというような感じがしました。

この素案の点線囲みの扱いは少し微妙だなと思いましたので、工夫が必要のように思います。

●今村座長

ありがとうございます。実はこの目標に関しては以前お示しさせていただいたところは、目標は触れていませんでした。ただし、理念があって目標というものが次に重要なものなので明記はしたのですが、まだ議論が十分ではない気がいたします。ただ、事例として、ここでは入れさせていただいたということでございます。

これについては武田委員から具体的なところもいただきましたし、他の委員からもこの点は集計させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

●太田委員

素案のところ、具体的な目標がないと申し上げたのは私なのですが、これは「ない」という指摘をしたわけではなくて、当初この点線のところが無かった状態で具体的な目標についてというところを見てしまうと、具体的な目標を今立てる必要がないといったように読めてしまうのではないかと指摘をしたつもりだったのです。ですので、素案を加えて欲しいという意図は全くありませんでした。

●今村座長

いかがでしょうか。素案は一部出たのですが。

●太田委員

素案について違和感があったという意見が多かったという気がします。これがあった上で具体的な目標を設定する必要がないという話の流れだったと思ったものですから、そこだけ読むと今目標を立てる必要がないという意見が出たように見えてしまうと懸念したものなので、素案を示して欲しいという意図はありません。

●今村座長

ありがとうございます。他の委員の方々はいかがでしょうか。

●宮下委員

太田委員がおっしゃったように、目標がないというのは問題であるとは思いますが、それが年数なのかいふところに違和感が残ると思います。やはり30年という年月が長く見えるということと、30年後にこの伝承文化が根付けばそこで終わりというようにも取れます。でもその先にも続けていくと書いてあるし、続けていくことが大事なので、年数の目標よりは具体的にどうするべきかという目標が必要だと思います。年数ではない気がします。

●今村座長

ありがとうございます。阿部委員いかがでしょうか。

●阿部委員

今の武田委員と太田委員の意見は、なるほどなと思いました。

また別のことですが、ニュアンスの差程度で私も判断が分からないのですが、基本理念の箱で括られている3つ目の○で「県民すべてが伝承の意識を共有して」とあります。「意識」と「意義」では違うような気がしますし、基本理念の中に入れるのであれば「意義」の方が落ち着きがいいような気がいたします。「意識」というのは気にかけるという点、「意義」ですと大切さという点、「意義」の方がいいのかなと。判断がつかないのですが。

●今村座長

御意見ありがとうございます。

基本理念として「意識」というのは主体がなく、心がけましょうという程度になるので、必要性とか重要性となると「意義」かと。

●阿部委員

そう、重要性。伝承が大切だ、ということを経営化の方がいいのではないかなという気がいたします。

●今村座長

そうすると「意義」が適切であると。ありがとうございました。

その他いかがでしょうか。目標については今すべての目標の整理をすることとは難しいので、その文章を残しながら点線のところをどう事例として違和感のないように挙げていただくのか。また30年というのはやはり色々御意見がありそうなので、このあたりは整理していきたいと

思います。

●塚原委員（代理 村山隆夫 センター長）

先ほどの目標の年数なのですが、組織として立ち上げる目標のいつからというのはここには入らないのですか。

●今村座長

そこもなかなか。

●塚原委員（代理 村山隆夫 センター長）

非常に難しい問題であると思います。目標感はあるのですが、スタートがいつからなのかというものも、まさに武田委員からのコメントでも早めにとということがありましたので、やはり風化する前に早い段階でということであれば、ある程度スタートの時期も入れた方が目標感としてはいいのかなと思いました。

●今村座長

ありがとうございます。

今おっしゃっていただいた風化する前になるべく早い時期にとというのは恐らく異議はないと思いますので、そこは入れさせていただきたいと思います。あとの具体的なところはなかなか現段階では難しいのかなと思っておりますけれども。

●小田委員

今の30年という流れで、最初はあるタイムフレームを用意しておいて、よくやるPDCAサイクルの感じでここまでやったらこういうものが達成されたというものをチェックするというイメージで最初出てきたのだと思うのですけれど、ここで言っているのは、達成されたものは災害対応が地域文化として根付いたという、それ自体はチェックリストでやるような目標ではないので、そこに数字を入れることに違和感を覚えているのだと思います。

タイムフレームはそういうサイクルというか、親が子になってまたというサイクルは、イメージとしては理解できますが、これが達成されたという具体的な目標に対してタイムスパンを入れるのであれば、それは段階的なものであって、この段階で文化が根付いたというものを30年というのはある。抽象的なのですが、数字を入れるということでは。

●今村座長

まずは今回目標というのは、理念を達するための何段階かの最初の目標ですね。これもまだ粗々もできていないので今後しなくてははいけない。その第一段階をできるだけ早急にとこの会議の総意はあるかと思います。

あとどのようにPDCAサイクルを回すかという事も重要なことですので、いきなり次世代とか三代、30世代というのはないので、どの程度に分けながらやるのかというところで、もし御意見があれば積極的に出していただきたいと思います。

●小田委員

イメージとしてはここまでに教育・啓発の分野ではこういうものが達成されたとか、でもこの分野ではこうというのですが、必ずしも同じ終着点というか、タイムスパンではないと思います。それをやり始めたら、結構なアクションプランになってしまうので、その意味では30年と

明確に示すのはどうかと思います。

●今村座長

ちょっと目標に関しては置かせていただいて、全体の議論を踏まえてまた戻らせていただきます。ありがとうございます。

それでは次4ページのところで、細かなところなのですが、点線で示させていただいた「主な意見」という単語に関してはいかかでしょうか。ここも事務局で苦戦したところでございます。読みながら「主」のところは変えて、「参考」であったり「類似して」というところであったりと書かせていただきました。「追加」というのはネガティブ的なものもあるということで。

●武田委員

「その他意見」は確かに削除感がありますね。「主な意見」であれば色々なものを包含して、賛否両論が入り交じっているという意味で目をとめる項目となっているので、「主な意見」という集約はよろしいのではないかと思います。

●宮原委員

「関連する意見」とか。

●今村座長

「関連する意見」ですね。

●宮原委員

ここのパートで関連して出された意見として。

●今村座長

そうですね。

●武田委員

それもいいですね。

●今村座長

ありがとうございます。

このあたりはまた全体を通じまして事務局と詰めさせていただきたいと思います。

●宮原委員

1ページ戻ってよろしいでしょうか。

●今村座長

どうぞ。

●宮原委員

この有識者会議の概要なのですが、実は抜けているのではないかとこのところがあります。

この目的のところ「有識者会議を開催したもの」とありますが、「誰が」開催したのかということが書かれていません。要は宮城県の担当部局になるのですが、この中に有識者会議の概要

であれば委員、会議開催状況と事務局、どこの部署の方がこれを主管されたかという事も明記していただきたいということと、今回沢山の関係機関の方がオブザーバーとしてお越しになっていらっしゃるの、オブザーバーとしてどういった部署の方が御一緒に会議を聞かれていたかという部分も書かれておくと、別の方々が後から御覧になったときに、関係してくるかもしれないねということも判断してもらえらると思うのです。

記載スペースを確保するために、会議開催状況の時間までは記載されなくてもよろしいのではないかと思います。日付だけにして、詰めてそこに事務局を入れてもらった方がよいかと思いましたが。多分表紙にもどの部局が発行したかに入ると思いますが。

●今村座長

分かりました。担当部局はどこかに入れていただくこととオブザーバーの方からは話題提供もいただきましたし、それは資料編ということで毎回の参加者リスト等を出していただければと思います。ありがとうございます。

●太田委員

2ページですが、検討に至る背景の中で、「宮城県で1万人超の方が亡くなられている」というのが、ちょっと大雑把すぎて気になります。調べましたら、2月1日の県のデータで関連死を含めて11,690人という細かい数字が河北新報さんに出ておりましたので、できるだけ正確な数字を入れていただいた方が見る方にとってはいいのではないかなと思いました。

●今村座長

ありがとうございます。

きちんと統計的に出ているものと、御発言がありました関連死というものも今回非常に大きな、まだ影響が続いておりますので、それについても何日時点でよろしいかと思うので記載いただきたいと思います。

御指摘ありがとうございます。是非記載いただきたいと思います。

その他10ページまで見ていただきながらどうでしょうか。

●宮下委員

全体を通して思っていることですが、理念やその他の場箇所でも「県民運動」や「県民すべてが」という言葉が出てきます。あえて「岩手・宮城内陸地震の経験・教訓」という言葉も入っているのですが、この東日本大震災では、被災していない人達が被災した人達を受け入れたこと、県民が県民を支える活動を行ったことに大きな意味があったと思います。被災者が被災者を支援するという活動もちろん被災地の中で行われていましたし、県民同士が支え合って乗り切っていこうという気運が、当時、被災地の中で高まっていたのではないか感じました。

どうしても震災の伝承ということになると、被災したと地域と被災された方が進めていくというイメージですが、被災者・被災地域を支える人達が県内にもいたということはとても重要で、そのような活動も伝承の一つであって良いと思います。これから起こるかもしれない災害でも、被災していない人の方が圧倒的に多い地域というのはあると思います。そのようなときに県民全体として被災した人達を支援していたという事を伝えることが必要だと感じます。県民の皆さんが災害の伝承を自分のこととして、被災しなかったけれども被災者支援に関わったこと、被災者のことを想って一緒に復興を目指したことを声に出していえるような形にすることが、県民全員が伝承に関わる意識付けにつながるのではないかなと思います。

「誰が」「何のために」というパートでもいいのですが、盛り込むパートを工夫して、県民同

士の支え合いがあったことを入れていただきたいと思いました。

●今村座長

ありがとうございます。御指摘の点は議論にはあったのですが、ここには明文化されていないと思います。恐らく3のところ。

●武田委員

よろしいですか。そこが恐らく4ページの中程の考え方のところで「誰が」がやはり基本ですよ、と修正をお願いしたのは私なのですが、「誰が」という主語が理念のところになかなか出てこないのです。主語が無いのですよね、黒枠の中に。これは言わなくても分かるでしょうということだと思いますが、5ページの④の伝承の主体「誰が」のところには「東日本大震災の経験の有無にかかわらず」ときちんとして書いてあるのです。これがなかなか前面に出てこないまま、とりまとめが流れているので、指摘させていただいた訳です。

しかし順番としては議論した順番に書いてくださいと申し上げました。でも全編通じて「誰が」取り組むのか、それは県民全体です、被災しているいないに関わらず、皆さんで取り組みましょうということは会議の中で確認した事項なので、そのあたりが滲んだ方がよろしいのではないかと、宮下委員と同じ意見です。

●今村座長

ありがとうございます。

恐らく最初のところは5ページの④のところになると思いますので、ここを先ほどの県民同士などの色々な主体の記述を加えて書かせていただきたいと思います。

その他いかがでしょうか。

●塚原委員（代理 村山隆夫 センター長）

8ページ目で資料3の意見として記載がありますけれども、「(オ) 地域外からの受け入れ体制・観光による伝承」についてです。みやぎ観光復興支援センターという立場でお話するのも何なのですが、やはり観光といいますと、どうしても物見遊山的なものもありますので、他の部分でも出ているような、例えばツーリズムという言葉を入れて、観光の物見遊山的なものだけではなく、視察ですとかそういったものを入れた方が、より全体のバランス的に良くなるのかなという印象を受けました。

あと事務局さんからいただいております、交流人口の拡大というのは、まさにおっしゃるとおりであると思いますので、その辺を上手く盛り込んだ文章で表現できればいいと思いました。

●今村座長

分かりました。今の8ページの観光というのは広い意味での交流であったり、視察であったりという想いはあるのですが、確かに文章にしてしまいますと「観光」ということになってしまいますので、どこかで定義するか、丁寧に書きたいと思っております。

ありがとうございます。

●太田委員

それについても私も「観光」について違和感がありまして、例えば震災ツーリズムとか新しい言葉も出てきていますので、そういったものを活用してはどうかと思います。

●塚原委員（代理 村山隆夫 センター長）

あくまでも伝承ということを考えれば、復興ツーリズムなのか、そういった形の表現がよいかと。後半のアーカイブのところでも復興ツーリズムというコメントが16ページにありましたので。まさにここで16ページの「復興ツーリズム等のコーディネート」に括弧書きで修学旅行・観光・視察とありますので、同じトーンにした方が伝わりやすいと思います。

●今村座長

ありがとうございます。

この報告書の中で遡りまして「観光」というところがありましたが、そこで広い意味での「ツーリズム」と定義するか、丁寧に書いていきたいと思います。

その他いかがでしょうか。

●宮原委員

7ページです。資料3の裏面でも挙げられておりますが、「(1)「誰に」伝承するか?③行政」で、これは私が他の地域の行政を担う方達にもこういった伝承をつなげてもらいたいということで、「行政」という言葉を入れたのですが、御意見の中で「行政」だけでは区切りが小さいのでは、また「行政」に特化するのはいかがでしょうかというところがあります。

基本的には行政の方こそという想いがあったので「行政」と区切ったのですが、もう少しここで他の方を含んでということであれば、例えば③は「行政（県・市町村）」や「様々な社会の担い手」ではいかがでしょうか。様々な社会の担い手となると大きくなってしまいますでしょうか、NPOや学校も含んでということですね、そういったところで括弧しておく。①や②は被災した地域に住む県民の人、宮城県以外に住む方達で来訪者・居住者という括りになっています。職業といますか、役割を持った人達にきちんと伝えていくべきというニュアンスを③に持たせる形にして、ただ「行政」という言葉はぜひ入れていただきたいと思います。お役所の方にこそということで。あとは警察・消防の方とかそういう方達も含まれると思います。

●今村座長

分かりました。参考に③のところを整理したいと思います。

●宮下委員

今の「行政」のところは、地域外の行政だけではなくて、地元の行政機関の人達にも伝承していった欲しいという想いがあります。世代が変わると災害対応の経験がない人達がどんどん入ってきて、伝わっていないということが多々あるので、そういったことも含めて行政の方や地域にならう方達に伝えることは大事だと思います。

●今村座長

ありがとうございます。

●小田委員

その意味からしますと、学校教員とかも伝承の担い手の中心となって、世代も変わっていくという意味からすると、県内外の教員なども。一つの言葉で表すのは難しいかもしれませんが。

●今村座長

教育関係者か、学校という言葉もキーワードかもしれませんね。

●小田委員

警察・消防という言葉も出ていましたけれども。

●宮下委員

大きく括って、その中にぼつぼつとあるのがいいのではないかなという気がいたします。

●今村座長

ありがとうございます。

確かに③のところは2行で内容がシンプルすぎました。

●武田委員

明らかに後ろの図で主体になる輪が描いてあって、そういうものがすべて絡むのですよね。そのような形で③を大括りの中で役割を担う、関係性のところを列挙しても問題はないのかと思います。それも県内外と明記して整理してもいいかもしれませんね。そこは手厚くした方がいいかもしれません。

●今村座長

その通りにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

それでは後半の11ページも見てくださいながら御意見をいただきたいと思います。

ここでは連携ネットワークでございまして、それぞれのところで目的・機能・課題も入れながら、先ほどの「主な意見」「関連意見」は点線で囲んでいただいております。

イメージ図も前回までの議論もいただいて、ある程度入ってきているかと思います。ただ図でするので、分かりづらいとかちょっとここはというところは御指摘いただければと思います。

あと最後の資料編も含めてお気づきの点ありましたら御発言をいただきたいと思います。

●太田委員

視覚的なものなのですが、15ページの県が3枚横に並んでいる図が、県の地図が3つ並ぶのは意図がよく分からないといいますか。3層になっているという表現だと思いますが、一つの県の上に層が3つあるということでもいいのではないかと思うのですが。横に県の地図が3つ並んでいるところはどうかと思いました。

●今村座長

狙い的には宮城県は1つで、その中に主体があったりアーカイブがあったりと構造的なもの。図のノーマルな視点で、立体的に描くとこの中身が分からないと。あと今までの図も横並びにしていました。一番大切なのはブルーの矢印ですね。これらのものを一括して支援するような組織が必要だということでもあります。またいいアイデアがあれば考えさせていただきたいと思います。

●武田委員

文言のことなのですが、すべてに目的・機能・課題と整理している中で、「課題」という挙げ方が気になります。「課題」とあると取り組んでいく上での壁という意味合いの言葉でもあります。逆に言えば「具体的な目標」であり、「取り組まなくてはいけないテーマ」であるということなので、ネガティブな面での「課題」ではなく、むしろこういうことをやらなくてはいけない項目であるという言葉に置き換えられるといいですね。何とやるのか、具体的な目標とやるの

か、達成目標としてやるのか。そういう言葉の方がより前向きな感じがします。

●今村座長

「具体的な課題」、「達成するための課題」、「取り組むべき課題」。

●武田委員

そうですね、「取り組むべき課題」。私なんかは「課題」を使うときは、「問題」という用語で使っているものですから。行政の世界とはまた違うのかもしれないのですが。すみません、こだわるものではありませんから、置き換える積極的な言葉があれば、置き換えてもいいのかなと思いました。

●今村座長

分かりました。ありがとうございます。

●小田委員

それこそ先のPDCAでいうと、この部分が達成されて、この部分は達成されていないという、目標の項目になるようなイメージになるかと思います。

●今村座長

そうすると「取り組むべき課題」でしょうか。

●武田委員

難しいですね。

●今村座長

難しいですね。現状としてはこういうところが不足していたり、なんとかやっていたりというところが項目としてなりますね。

そうですね、今の4章のところを踏まえながら、目標というものをもう一度書いてみる、3ページのところを書いてみるというのは検討していただきたいと思います。

全体を通じていかがでしょうか。

●宮原委員

14ページの「取組主体の連携・ネットワーク化のイメージ図」で、ここには色々な主体が出ていて、その中でちょっと気になるのは宮城県のスタンスです。

「市町村」と「県」と同じ輪として並んでいる中で、県が全体の役割のどこを受け持とうとされているのか、この会議ではこういうことをして欲しいと言うべきなのかもしれないのですが、実はそこが分からなくて、この会議を主催されている中で、県自体がどういうスタンスでこれからの伝承を牽引していこうとされているのかというところが実は読めないのです。県が埋もれているといいますか。

私たちの意見はきちんと出ているのですが、そこをどのように捕まえていったら良いのかというところが分からなくて、これが出た後に、では誰がといつたときに実際に動くのが難しくなりそうな気がします。これは印象ですが。

●今村座長

ありがとうございます。

前回か前々回かに出た御意見なのですが、県の方の御意見を。

●伊東 震災復興・企画部長

今回のあり方検討については、県としての考え方をお示ししてそれに御意見をいただくというのではなく、まずは今の県内外の状況を踏まえて、色々と活動していただいている皆さまからあり方ということで色々と意見をいただいて、これを今回意見としてまとめた形にさせていただくということをしているのですが、これを基に県としてどうしていこうかというところで、知事が県議会でお話したように、ネットワークをどういう仕組みでいくのか、具体化していこうかということ県としては考えているということです。

今回お話があったように、県民運動としていくとか官民連携という中で、県だけでできることではないので、皆さんと一緒にやっていくということについて今後具体化していきたいと考えております。

この図の中で「県」が真ん中に入れればいいのか、それも違うのかなと思います。そういう意味では、兵庫県では「官」が主導で、中越では「民」が主導でやっているというなかで、宮城は官民連携で、今活動されている方々の活動が続くような形で、どういうふうにしていったらいいのかを具体化していきたいというスタンスなものですから、今の段階で県がこれをやりますというお話ができないところです。

●宮原委員

そのあたりのスタンスが明記されている方が、例えば1ページのところで、何故この会議を招集したのか、委員の役割は何で、県がそれを受けて、今部長がおっしゃったプロセスで展開していきますというようなところが最初にあると、このあたりは違和感がないかなと思います。

●今村座長

私も1の目的か、またはプリフェイスということで1枚巻頭を、まさに伊東部長に書いていただいてもいいのかなと思いますが、それは事務局にお任せいたします。そういう前提条件を記載するということですね。

●宮原委員

はい。

●今村座長

よろしく願いいたします。

●阿部委員

資料編についてです。どうなのだろうという感触もあるので、意味をお教えいただければそれで結構というところもあります。

まず23ページの「復旧・復興に係る記録誌等作成状況」で、23ページ中段では複数年度がしっかり記載されているのですが、24ページは波線で何年度～何年度となっている。これはどちらかに統一した方が、見場がよろしいのではないかという気がいたします。これが1点。

次に22ページの「県内語り部の状況」です。東松島市社会福祉協議会のところが不明になっているのですが、確かに照会したら「不明」ときたのかなという気もいたしますが、社会福祉協

議会が活動団体となっていて活動エリアが不明ということは、何か不明な感じがします。これは再度お尋ねになると判明するのではないかなという気がいたしました。

それから22ページ下の※がどのような意味なのか、何を意味してここに記載されたのか分からない付記のような気がするのですが。これは上に※があるのではないかと見え、分かりにくいなという感じがしました。

最後ですが、21ページでは、松島町と利府町が該当無しということで、「無し」という表記になっております。ところが22ページでは、語り部状況で、多賀城市、松島町はたぶん該当無しでの斜線表記になっており、事務局作成資料であれば、どちらかに統一された方が格好がいいかなという気がいたしました。

私が見て感じたところは以上です。

●今村座長

ありがとうございました。

恐らく22ページのメモリアルネットワークの件は、表の中に入れていただいてもいいような気がいたします。

●阿部委員

そうですね。何で※があるのかが分からない。

●今村座長

恐らくこのネットワーク発足前の会議資料を基に、こちらに付け加えていただいたのかなと思うのですが。

●山下 参事兼震災復興推進課長

この資料編につきましては、第1回目以降の会議で資料として出させていただいたものです。先ほどの語り部のところにつきましては、3. 11メモリアルネットワークの発足が11月となっており、この資料はその前に作成したということもありますので、今回最終的にまとめる段階で資料についてはもう一度確認した上で、きちんとしたものとして提示したいと思います。

●今村座長

時系列的なものについては3月中旬時点という形で構いませんので、再確認していただければと思います。

●阿部委員

私が指摘させていただいたのは、大変よくまとめていただいて、難しい問題を、多様な関連意見、主な意見、色々な意見が出てくる中で取りまとめというかたちでよくまとめていただいたなと思いますので、最後のところをきちんと締められた方がもっといいなという感じがしたものですから、そのような意味で申し上げました。

●今村座長

ありがとうございました。

実は資料編に関しては、昨日の下打ち合わせで急遽入れていただきまして、そういう面がございました。

●阿部委員

入れていただいて良かったと思います。

●宮原委員

さらにすみません。宮城県や仙台市さんは沢山の記録誌が作られております。作成された記録誌の並べ方なのですが、年度の古い順に並べていただけたらいいのかなと思いました。

初期にどんなことが書かれていたか、新しくなってどういう課題で書かれているかということが分かるような流れになるといいかなと思います。

●今村座長

他にも部局別とかあれば書いていただいても、どのような順番なのか書かれているのか気になる所ではあります。

ありがとうございました。その他どうでしょうか。

それでは全体を通じて資料2についてコメントをいただきたいと思います。

●武田委員

15ページの「ネットワークを運営する組織と課題について」(1) ネットワークを運営する組織の必要性の1行目から2行目にかけてのところ、「県を俯瞰して引っ張っていく組織は必要であり、既に取り組んでいる人たちだけではないような仕組み」というのも何か文言としてこなれていないので、ここで言おうとしているのは「既に取り組んでいる人たちを含めて新たな連携を強化する仕組みも必要である」との意見が出された」くらいの表現の方がよりいいですよ。

その一番下の「連携を行っていくためにも、伝承組織が必要である」というようにまとめてよろしいのかなと、伝承組織なのかなあというのもありました。ある程度の拠点機能を発揮できる組織という意味の方がこの単語としては適当なのかなと。あくまでも伝承だけを目標にした組織には多分ならないであろうと思います。

そういう意味では「啓発」ということで何回か意見を申し上げていて、県民運動を起すための拠点になるような組織をこれには期待されている訳ですから、他の箇所でもし伝承組織というような役割を規定したような文言が使われているところがあれば、そこはある程度伝承や啓発において拠点性を発揮できる組織が必要であると、拠点的機能が発揮できる組織が必要であるというような言い換えの方がより正確かなと思いました。

そうしますと17ページの震災伝承組織の先行事例というのも、ひょうご震災記念21世紀研究機構と中越防災安全推進機構は伝承組織ではないですよ。伝承もやっているけれども、様々な機能を持った発信組織ということでもあると思います。何か所かあると思いますので、確認いただきたいと思います。

●今村座長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。全体を通じて気づいた点は、ございますでしょうか。

●太田委員

表現に違和感があります。7ページの(2)③に「自然災害に立ち向かう組織・仕組みについても検討していく必要がある。」とありますが、自然災害に立ち向かうというのはどういうことなのか。

●今村座長

自然災害は我々のコントロール以上のものでもあるのですが、防災とか減災についてより推進するという意味合いではあると思うのですが。

●太田委員

意味は分かるのですが、表現をもう少し工夫していただく方が良いかと。

●宮原委員

これは「防災」という言葉で、「防災・減災」という言葉に置き換えてもよろしいかと思いません。

●今村座長

そうですね。ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。

よろしければ今日のところでもう一度見ていただいて、語句とか違和感のある表現とかあるかと思しますので、恐らく今週中ぐらいであれば大丈夫でしょうか。細かい修正等お気づきの点、どうでしょうか。大丈夫でしょうか。

今日ご意見をいただいたところは加筆・修正させていただきたいと思います。

資料2に関しては、基本的な事項は概ねお認めいただいたということで理解させていただき、また最終形につきましては、その御意見をいただいた後、私の方で事務局の方でもう一度詰めさせていただいて、全体を見て形にさせていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

(異議なし)

また、翌日見ると気になるところも出てくると思うので、そこは是非今週中に。

もう一度この資料2のデータをお送りしますか、修正したものを。木曜日くらいに出して、週末見ていただき、来週の頭に意見を出していただくと。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

●武田委員

素案のところは結局どうなったのですか。具体的な目標（素案）のところの扱いは飛ばしていました。このままでは事務局が困ると思うので、書くのか書かないのか、書くのであればどのように書くのか、30年後という素案があったということを明記し、しかしそれについてはやはり長すぎて、具体的な年次としては不適當で別途考える必要があるくらいの意見が出たという風にまとめるのか、最初からこれは出さないのか。素案が出てきた経緯自体が不明確だったような記憶もあるので、素案として扱っていいのかどうかも含めて、ここははっきりさせておいた方がいいような気がします。

●今村座長

そうですね。点線囲いのところは今言っていたように詳しく書くということで。あと先ほどの議論の中で例えば11ページ以降、③の「取り組むべき課題」というところも具体的に挙がっていますので、これらも目標となる素案にもなる要素があるようにも思います。いくつか入れながら点線囲いの中は加筆・修正すると。

この点、いかがでしょうか。

●武田委員

この会議の中で素案として出てきたものではないという扱いになっていないと、このメンバーの中で30年という意見がそもそも出ていたのだという風に読まれないような注意だけはやっぱりしなければいけないですね。

決して大勢ではなかったような、むしろ否定的な意見が大半であったような気がするので。

●今村座長

分かりました。ありがとうございます。

それでは意見のまとめについては確認させていただきましたので、事務局の方に来年度以降の取り組みの予定等について御発言いただければと思います。

●伊東 震災復興・企画部長

ありがとうございました。

県としましては、いただきました意見を基として震災の記憶・教訓の伝承について、先ほど県として何に取り組んでいくのかという話もございましたが、県としての方針案をできるだけ早くまとめたいと思っております。

お話にもありましたように、官民連携、県民全体で取り組んでいくということになりますと、県の考えに色々な方々から御意見を頂きながら、皆さんにそういうお気持ちになっていただきながら進めていく必要があると考えておりますので、まずは県としての考え方をまとめていきたいと思っております。その上で、来年度の当初予算の中ではネットワークの具体化について、さらに検討・助言をいただくための会議を開催できるような経費も盛り込んでいるという状況でございます。来年度また皆様方には引き続き色々と御協力をいただくことになろうかと思っておりますので、是非よろしく願いいたします。

●今村座長

ありがとうございます。

この会議の中で時々市町での取組を御紹介いただきましたが、まだ具体的なものは無いということですので、それらの動きとか、あと今おっしゃっていただいた、来年度からの県の取り組みを踏まえながら進めていただけるということでございます。

ありがとうございました。

よろしいでしょうか。

●江口 理事兼震災復興・企画次長

よろしいでしょうか。今最後武田委員がおっしゃった、3ページの目標のところです。

時間が僅かな中で一番の難題なのですが、ここは今日の第6回の会議が終わって新たに作成するというのは、次の確認の会議も持てませんし、ここで新しく書き直すのは非常に難しいですし、報告書の中に有識者会議意見取りまとめの中に明記するものを今からもう一度修正するのは難しいかなと私は感じております。

今日の御議論をまさに踏まえて、後段にある課題と書かせていただいたところ等を取り込んだり、太田委員や宮下委員から目標はあるべきだという御指摘があったということを中心に書いて、具体的な目標の案等はこの会議のレベルでは持っておりませんし、そこは委ねるといって、部長が申し上げた次から具体的にしていく中では必ず出てくる話ですので、先立つ御指摘とか、そういうものを考えるべきであるとか、PDCAに反映できるようなものを立てるべきだという御指摘があったことを整理して、点線囲いの素案を出すような議論に至らなかったと、我々も

きちんと出せなかったということも含めて記載するということよろしいでしょうか。

●今村座長

分かりました。よろしいでしょうか。

なお、キーワードとして、地域社会であったり、宮城モデルはどこかできちんと入れていただきたいと思います。

●江口 理事兼震災復興・企画次長

点線囲いの中にですね。

●今村座長

点線囲いのところから動かしてしまうと重要なキーワードがなくなってしまいますので。

●太田委員

あくまでも意見させていただいた意図としては、30年後の話があったので、この会議で具体的な目標までは踏み込まないという議論の流れだったということと言いたかったということがありまして、具体的な目標を立てないということだけを書かれてしまうと、会議で目標を立てる必要が無いと意見になってしまったようになることが・・・。

●江口 理事兼震災復興・企画次長

むしろ目標を立てるべきだという御指摘があったということですね。

●太田委員

そうです。

●阿部委員

それこそ関連する主な意見か、関連する意見だったのか、そのあたりの中で何某かの取り上げ方をさせていただいた方がよろしいのではないかと思います。せっかくこういう議論が出ましたから、例えば30年とかあるいは一定の期限を切る必要があるのではないかとことを巡って、こういう議論が多様に出たということに関連する意見の中で拾い上げた方が、次にこの議論が生きていくかなという気がいたします。

●今村座長

ありがとうございます。4ページのところですね。

●阿部委員

入れられたらよろしいのではないかと思います。

●今村座長

ありがとうございました。

それでは議論はよろしいでしょうか。

(3) その他

●今村座長

それでは(3) その他でございます。事務局から御説明をいただければと思います。

●事務局(山下 参事兼震災復興推進課長)

今回これまでの意見を取りまとめさせていただきまして、先ほど座長からありましたように近日に修正版を出してもう一度見ていただくということを考えておりますので、よろしく願いいたします。

また委員の皆さま方におかれましては、今回の東日本大震災の記憶・教訓の伝承に関しまして、色々なご意見、想い、まだ言い足りないというものがございましたら、この資料とは別に、1ペーパー程度にまとめていただければ、それも記載する形でということも検討させていただきたいと思っております。最終的な体裁等は今村座長と整えさせていただきたいと考えておりますが、是非ございましたら事務局まで御提出いただけたらと思っております。こちらにつきましても、よろしく願いいたします。

●今村座長

ありがとうございます。

大変お忙しいところ恐縮ではありますが、この資料はかなり体系的に整理できているかとは思いますが、各個人の委員の皆さまの想いも1ページ程度で書いていただければと思います。字数は上限1ページです。お書きいただければ大変ありがたいと思います。

●武田委員

1つよろしいですか。

取りまとめ文章はどのような形で公表されたり共有されたり、ないしは何か今村座長は知事に説明するというようなこともおっしゃっていましたよね。そういうことも含めて、これの取り扱いは今後どのような扱いになるのでしょうか。

●事務局(山下 参事兼震災復興推進課長)

基本的なところとしては、これまでの会議もホームページで公開させていただきましたので、最終的な形でのとりまとめとしては公表させていただく形になるかと思っております。

有識者会議の方から県の方にどういう風に説明していただくかということにつきましては、今後検討させていただきたいと思っております。

●武田委員

作業としては修正したものをもう一度確認して、反映されて、このようにまとまりましたということで我々にきて、了解が取れて、その時点で公表という流れになるのですか。

●事務局(山下 参事兼震災復興推進課長)

最終的に最終版を御了解いただいた段階で公表という形にさせていただきたいと思っております。

●今村座長

その後に関しましては、またアクションを考えていただければと思います。

ありがとうございます。(3) その他に関して委員の皆さまからはよろしいでしょうか。

ありがとうございました。

では以上で議事を終了させていただきます。本当に活発な御意見をいただきましてありがとうございます。この会議ですが、非常に出席率が高いということと、非常に有効なコメントを出していただいております。私は座長をさせていただく中で、本当に感謝申し上げたいと思います。ただ、これは1歩であります。理念をまとめたということでもありますので、この結果を次に繋げさせていただきたいと思っております。

今後とも委員の皆様方には色々な御支援、御協力をいただくとお思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、事務局に進行を移したいと思います。

4 閉会

●山崎 震災復興推進課副参事兼課長補佐（総括担当）

今村座長，進行ありがとうございました。

今回が最終回の有識者会議となります。最後に改めまして、伊東震災復興・企画部長からお礼の御挨拶を申し上げます。

●伊東 震災復興・企画部長

本当に皆様方にはお忙しい中を6回にわたって会議に御参加いただきました。そして今お話があったように大変熱心に、心のこもった色々な御意見をいただいたと感じております。本当にありがとうございます。座長の今村先生には大変御苦勞をおかけいたしました。本当にありがとうございました。

先ほどお話ししましたように、今回いただいた意見を基に、県としても本格的に伝承に向けてスタートを切れるなどと思っております。

来年度以降、東日本大震災の記憶・教訓の伝承を具体化していくために頑張っていきたいと考えておりますので、是非今後とも委員の皆様方には御協力をよろしくお願いいたします。

本当にありがとうございました。お疲れ様でした。

●山崎 震災復興推進課副参事兼課長補佐（総括担当）

以上持ちまして、第6回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議を終了させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。